



『ほっとCafe』で、利用者と託児所「ほっぼ」の子供達(ブレーグあしたか)

## 「福祉の仕事に生産性向上の視点を」

春風会 理事長 石川 三義

私はよく法人職員に対して、職員一人ひとりのモラル・人間性・倫理性と経営の大切さをお話ししていますが、最近は福祉現場での生産性という概念の視点が求められていると強く感じるようになりました。

最近読んだ本の中に、マッキンゼーに勤務していた伊賀泰代さんの『生産性』（ダイヤモンド社）という本があります。この本によると、日本経済は、今後すべての産業で労働力不足が深刻化し、大きな社会問題化していきます。二十五年後には年間一〇〇万人もの人口減少が始まり、これは、外国人労働者や移民でカバーできる規模ではないし、また女性や高齢者の就業率を少々上げて解決できる問題でもないとのこと。私たち介護現場でもすでに深刻な介護労働力不足に悩んでおり、外国人労働者や女性・高齢者の就業率を上げて何とか解決しようとしています、これもいづれ限界があると言われて

います。そこで、まずこれからの企業に求められるのは、すべての人が希望するワークスタイルを実現できるよう支援すること、また時短勤務や在宅勤務も子育てや介護中の社員だけでなく、あらゆる社員に認められる制度とすることが目標とすべき方向だと言われています。更に大切なことは、製造業における生産性向上と共に非製造業・サービス業における

生産性を上げるための二つの方法は、「成果を上げること」と「投入資源量を減らすこと」でありますが、さらにそれぞれを達成するための手段として「改善」と「革新」という二つのアプローチが存在します。つまり生産性を上げる方法は、全部で四種類存在することです。「改善」による投入資源の削減、「革新」による投入資源の増加、「改善」による付加価値額の増加、「革新」による付加価値額の増加です。私たち福祉現場も生産性向上の手段としてこの四つの項目を視野に入れて取り組むべきでしょう。

これまで、「改善」という視点はありましたが、「革新」イノベーションという発想はほとんどありませんでした。私自身、福祉の世界で生産性を強調するのはタブーであると感じてきました。しかし、一〇年後、二〇年後の労働力不足を考えた時、またサービスの質の向上という視点から、福祉・介護の現場に生産性の視点を入れないと質の高い福祉・介護が、国民から信頼される福祉が実現できないものと考えます。

それと同時に、私たちの福祉の仕事は、人の命・生命を支え、その人の生活をお預かりする仕事、まさに聖域であることを忘れてはならないと言えます。この前提のもとに改善と革新を推進していくことだと、最近思っています。

# 平成30年度 社会福祉法人春風会 事業経営基本方針

## ① 利用者の人格を尊重し、職員の助け合う心と創意工夫の発揮、信頼される施設づくり

- (1) 利用者一人ひとりの人格を尊重した常に質の高いサービスを提供し、利用者・家族・地域・関係機関から信頼され、他に負けない施設作りを推進する。
- (2) 職員一人ひとりを大切に育て、職員が夢と誇りを持って、楽しく生き生きと働ける魅力ある職場、遣り甲斐のある職場作りに全力で取り組む。

## ② 職員の研修・教育システムの充実、海外研修の実施や次世代の幹部職員を養成する

- (1) 職員の人材確保と育成に全力を挙げて取り組み、職員研修・教育体制の充実を図る。
- (2) 新規採用職員を対象としたトレーナー制度の充実・強化、中堅職員を対象とした介護技術研修の実施と高齢者介護マニュアルを活用した『介護の統一化・標準化』、『科学的な介護』を実現していく。
- (3) リーダー研修において副・主任の職務の明確化を図り、リーダーシップを発揮しやすい体制作りを構築する。
- (4) 海外の福祉施設との人的交流を図り、幅広い人材の育成と夢を持って働ける職場づくりに努める。

## ③ 職員のモラル・マナー教育を推進する

- (1) 「春風会職員の心得」を活用し、職員のモラルや人間性の向上に努める。
- (2) 法人の接遇委員会の充実・強化を図り、職員のモラルや接遇マナー教育を更に推進する。

## ④ 施設内委員会活動、科学的介護と穏やかな看取り介護の推進、在宅事業の機能強化

- (1) 利用者の生活の質が上がるような処遇改善と介護事故ゼロ・褥瘡ゼロ・オムツゼロ・拘束ゼロ、科学的介護と穏やかな看取り介護に向けた取り組みや、職員のメンタルケア等について推進する。
- (2) 付加価値のあるデイサービスづくりのためサービスプログラムの開発、座るデイから歩くデイへ、ノルディックウォーク等の普及・推進や認知症デイサービスのプログラムの開発や介護予防・日常生活支援総合事業を推進する。
- (3) 地域包括ケアシステムを推進する上で、法人内の地域包括支援センターの機能強化と人材育成、訪問介護事業の効率的な運用を図る。

## ⑤ 介護・保育・障害の福祉の魅力発信と福祉現場でのIT化の推進、生産性の向上を図る

- (1) 労働人口の急激な減少に伴い、福祉現場でも生産性の向上を推進することが要求されている。
- (2) 限られた職員配置の下、いかに効率的・生産的に仕事を回すかを模索し、サービスの向上・質の向上を図っていく。
- (3) 保育・介護記録の電子化、高齢者の見守りセンサーやベビーセンサーの活用、インカム無線機の導入など介護機器の積極的な導入、介護ロボットの活用、福祉現場の情報化・IT化を法人の全施設で推進する。

## ⑥ 職員の資格取得等の支援制度や福利厚生などの労働条件の改善、EPA等の人材確保対策の推進を図る

- (1) 介護職員実務者研修・初任者研修などの資格取得に対して支援制度、費用負担制度を設ける。
- (2) 職員紹介手当制度の周知徹底と、今年度は奨学金返済補助制度について検討する。
- (3) 人材確保対策として今後もEPAによる外国人介護職員の確保と並んで、外国人技能実習生の受け入れを推進する。
- (4) 介護の専門業務と一般業務を棲み分けし、介護の一般業務は、65歳以上の高齢者雇用をはじめ、障害者の積極的雇用や家庭の主婦層の短時間労働によって確保する。

## ⑦ 職員の英知の集結と法人の経営方針と取り組み

- (1) アイデアコンテストの開催、3行提案制度・創意工夫提案制度を実施し全員の英知を集める。
- (2) 地域に密着したコンビニ経営と24時間の地域密着型サービスの事業展開、日本版CCRCの事業展開、障害者対象のショートステイなどの在宅サービスの在り方、また法人として医療機関との連携をはじめ医療機関の整備等について検討していく。

# 平成30年度 社会福祉法人春風会 事業経営方針



平成二十九年度事業の振り返りと  
平成三十年度の事業経営方針

平成二十九年度春風会では、各専門部会を中心に事業経営に取り組んできました。昨年度掲げた事業経営方針については、施設整備は、伊豆市中伊豆地区に建設を進めておりました、なにかいず認定こども園は四月一日に事業開始をして順調に運営が出来ております。

また、介護現場の負担軽減を図ることを目的とした介護記録の電子化への取り組みは、沼津地区のみはるの丘浮島、あしたかホームの両施設にて介護記録ソフトを導入し、職員の介護記録にかかる時間の削減を図ることができました。また、夜勤を中心とした介護職員の連携強化を目的としたインカムの導入は、あしたかホーム、ぬくもりの里、プレーグおおひとにて導入され、職員の相互協力により利用者の転倒事故も軽減され一定の効果を得られています。

平成三十年度は、二十九年度の反省を踏まえ、右頁の七項目を重点項目として取り組んでまいります。

## 平成29年度 社会福祉法人春風会 新規学卒採用予定者入社内定式

### 明日の法人を担う新たな仲間たち



春風会では平成29年12月9日(土)に、平成30年4月1日付け新規学卒採用予定者の入社内定式を行いました。今年度の新規学卒内定者は11名です。(平成30年1月1日現在)



#### 【内定者の出身校】

静岡福祉大学1名・相模女子大学1名・東京家政大学短期大学部1名・東京立正短期大学1名・静岡福祉医療専門学校2名・沼津情報ビジネス専門学校2名・大原簿記専門学校沼津校1名・知徳高校1名・沼津中央高校1名

# 法人通所委員会の

## 取り組み

春風会では、各施設長を部長会長とした五つの専門部会と、各事業所の主任者をメンバーとした十三の専門委員会があります。

法人の専門委員会の一つであります法人通所委員会は、通所介護施設一般型九箇所と認知症型五箇所の事業所で構成されています。

委員会では、お互いの事業所の情報共有や意見交換、課題の抽出・検討等おこなっています。また、通所部門全体での研修を立案し、実施しております。これらの取り組みにより、法人通所介護全体の質の向上とより良いサービス提供につながっております。

通所介護は、在宅で生活されている高齢者の方々が日帰りで施設に通いながら受けるサービスです。食事や入浴の

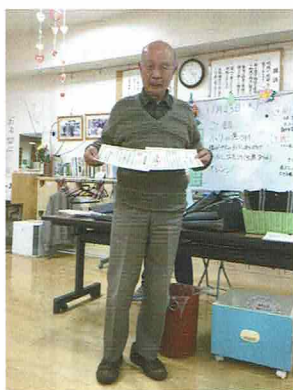
提供、健康状態の確認など日常生活のお世話をさせていた、大きくことはもちろんのこと、機能訓練やレクリエーション等で心身機能維持のお手伝いもさせていたいております。同年代の方との交流の場や憩いの場となり、生きがいを見つけていただけるような場を目指しサービスを提供しております。

近年、通所介護の事業所は春風会以外にも多くの事業所が展開されており、皆様に選んでいただける事業所となる為に、各事業所で皆様に喜んでいただける特色あるサービスを提供できるように日々努力しております。その中で春風会の事業所で行なっているいくつかの特色あるサービスをご紹介したいと思います。

## あしたかホーム 漢字検定に挑戦!!

あしたかホームデイサービスでは、昨年の10月新たな取り組みとして、利用者に漢字検定に挑戦していただきました。デイサービス棟を準会場に登録し、いつもの場所で試験を受ける事ができるように配慮し、挑戦者を集うことから始めました。

利用者のやる気はとも高く、試験を受ける、受けないに関わらず、漢字の勉強に励んで下さる方々は多くいらつしゃいました。利用中のレク時間を勉強に当てることはもちろん、自宅での学習、ショートステイを利用する時はプリントを持ち込んで勉強して下さる姿は、我々職員に「生涯学習」とい



満点合格者

う事を教えていただきました。一億総活躍社会において、高齢者の自立支援を目指して日々業務をさせていただいておりますが、目標を持った人の素晴らしさ、高齢となっても試験に挑戦する意思、学習意欲の大切さを目の当たりにした事で、あしたかホームデイサービスの職員は意識改革できました。課題は山積みですが、研究発表のテーマとして分析・評価を行い、今後も継続して行く方針です。



試験当日

# 洗濯・夕飯弁当・朝食サービス

私たち伊豆中央ケアセンターの三つのデイサービスでは、利用者、ご家族のニーズに沿った自費サービスを行っています。その中で、今回はふれあいデイサービスで行っている「洗濯サービス」・「夕飯弁当サービス」をご紹介します。

まずは「洗濯サービス」です。1回50円で行っており独居の方特に男性利用者がご利用されています。着替えの衣類を1組預かり、入浴時に着ていたものを洗濯し、お預かりしていた衣類を本人の着替えとしてお渡ししています。その後洗濯したものを次回の着替え衣類としています。

次に「夕飯弁当サービス」です。独居の方や、家族の帰りが遅い方等がご利用されています。地域性もあり、農業を行っている方が多くお米は家にある方が多く、お弁当もごはん付き・おかずのみのお

弁当をご用意しています。どちらでも1食500円にて提供しています。また、容器に關しても保温のできるものと、使い捨ての物を用意させていただきます。天城のふれあいデイサービスでは毎月150食程度のご利用があります。

伊豆中央ケアセンターデイサービスでは、早めのお迎えをし、デイサービスで朝食を摂っていただく「朝食サービス」も実施しています。

今後にもニーズに沿ったサービスが行えるように職員一同頑張っていきたいと思っております。



洗濯サービス

## 夕食弁当サービス



使い捨て容器(おかずのみ)



保温容器(おかずのみ)



使い捨て容器(ごはん付き)



## 高尾園



### 積み木が結ぶ笑顔の交流会

高尾園では地域貢献事業の一つとして、保育園に積み木を贈る活動を一年九ヶ月続けていて寄贈した保育園やこども園合わせて十四ヶ所、贈った積み木の数は五千六百個になります。

積み木の原料はトップワークスという建築会社よりヒノキの建築端材を頂き、道具を一切使わずに手作業にて角を丸くして安全に使用して頂けるように、子供の手が触れる面は特にやすりで磨き上げ一つ一つ丁寧に仕上げています。

平成二十九年十一月十八日にはらまち幼稚園祭りに招待して頂きました。幼稚園児と高尾園の利用者と共に、積み木の交流スペースにて遊びの空間を楽し



みました。手作りの積み木は一つずつ形も様々な為、積みあげるのも組み立てるのも大変ですが、幼稚園児の自由な発想と工夫により、形が不揃いだからこそ積み上げるのが難しいけど崩れても楽しい、出来た時の達成感が感じられ子供達は夢中になって遊んでいました。高尾園の利用者も園児の笑顔と夢中になって遊ぶ姿を見て喜びを感じていました。施設から地域に出て、障がいの有無に関係なく、皆が笑顔になれる良い交流の機会になりました。

最後に、はらまち幼稚園の園長より「また来年もよろしく」と声をかけていただき、地域に根付いた活動になっていいる事を実感しました。これからも積み木作りを続け笑顔の交流を大切にしていきます。

## あまぎ認定こども園



### 中学生徒との交流

あまぎ認定こども園には今年も天城中学の二年生が家庭科の授業で作ったおもちゃを持って一緒に遊ぼうとやってきてくれました。

事前に幼児について言語の発達・運動機能の発達・情緒の発達など学んだうえで、中学生特有のアイデアを出し合い、グループごとに作成した魚釣り・パズル・的当て・ゴム鉄砲・輪投げなど、どれも工夫されていて子ども達の喜びそうなものばかりです。子ども達はお兄さんお姉さんに教えてもらいながら楽しそうに遊んでいる様子がうかがえました。夢中に遊んでいるうちに約束や順番や回数など、

すし、中にはやり方を説明してもすぐに解ってもらえず戸惑っているグループもみられました。他の中学校では個別におもちゃを制作して一人の子どもと関わる場所もあるそうですが、天城中学では地域の子どもが減り兄弟関係も少なくなり、大勢の子どもと触れ合うことがあまりないので、グループ単位でのやり方にしたそうです。子ども達と中学生が触れ合う良い機会だったと思います。また夏には三名の女子生徒が体験学習にやってきて「子どもが大好き」といきいきと接し面倒をみてくれてとても頼もしく感じました。

秋にはお兄さんお姉さんのいる天城中学校に遠足に行ってきました。大きな校舎・大きなグラウンド・大きな体育館と武道館に圧倒されながらも楽しく過ごす事ができました。しかし、授業中のため、お兄さんお姉さんに逢うことは出来ず、ちよびり残念でした。また機会があれば一緒に遊んで欲しいと思います。

この天城から子ども達の元気な声が消えることのないように願います。

## ダブル受賞の快挙 『プラム』

新聞に社会福祉法人春風会プラムという文字が、何度か登場しました。プラムが開所してまだ2年目、着実にその存在感をアピールすることができたのではないのでしょうか。

新聞にプラムの名前が出たのは、2つのコンクールで受賞したことです。静岡県の農林水産物を使ったコンクール、「ふじのくに」新商品コレクション(2017)。出品したのは、高級感のあるシルクストールを加えた「わさび染め商品」、多くの審査員の前のプレゼンが実を結び、金賞受賞となりました。このコンクールでの食品以外の受賞はプラムのみ、福祉事業所でも唯一選ばれました。

更に「静岡県授産製品コンクール」では、わさび染めに加え、伊豆市の特産、土肥の白びわを使ったびわ染めを、「伊豆市からの贈り物」と題して出品、静岡県健康福祉部長賞をいただきました。同じ年に2つの賞を受賞

する快挙となりました。

2つの賞の受賞は、山崎副主任を中心に、長年にわたり商品開発に取り組んできた職員の高張りの賜物です。

染め物は、葉の量や煮込む時間など、難しい側面があります。利用者の作業として成り立たせるための分析と研究を重ね、利用者が「誇り」を持って取り組めるよう、職員は努力も惜しまず、作業支援にあたりたいと考えています。

伊豆市の特産である「わさび」「白びわ」を生かした商品への開発が、地域の方々への恩返しになれば何よりの喜びです。「地域に愛される商品づくり」をめざし、利用者の更なる工賃アップにつなげていきたいと思えます。



表彰式で川勝知事と山崎副主任

## ふるさと博覧会で『もくせい苑』を体験!!



伊豆の国市にある様々な魅力を、体験を通して知ってもらおうという「ふるさと博覧会」が、平成30年1月13日～2月12日まで開催されました。飲食店による料理作り体験、農家による収穫体験、お寺による法話、国際交流、歴史探訪、スポーツなど様々なプログラムがある中、私たち「もくせい苑」もバッグ作りを楽しみながら、就労継続支援施設や障がいを知ってもらうプログラムを行いました。

参加していただいた方には、はじめに職員が紙芝居形式で講義を行いました。「もくせい苑」ってどんなところ?何をするとところ?という説明からはじまり、平成28年4月から施行された障害者差別解消法と、合理的配慮を学んでもらい、障がいの有無に関わらず、みんなが過ごしやすい社会、みんなが活躍できる社会を目指していることを、やさしい言葉で解説しました。

その後は、お楽しみのバッグ作り体験です。参加者には好きな柄の生地を選んでもらい、線を引いたり、マチ針を刺したりして、ミシンで縫う前の支度を行います。その後は利用者にボタンタッチして、ミシン掛けをしてもらいます。利用者のとても丁寧なミシン掛けに皆さん驚かれました。再び参加者にボタンタッチし、次の工程のマチ針や線引きを行う…という共同作業により、バッグが形になっていきます。仕上げにアイロンプリントでオリジナルデザインを作り、世界にひとつだけのバッグが完成しました。

参加者からは「作業の丁寧さに驚いた、完成度が高いのに納得した」「就労継続支援施設の種類や違いをはじめて知った」などの感想が寄せられています。冬のふるさと博覧会は終了しましたが、また次の開催時に皆さんのご参加お待ちしております。



# はら包括支援センターの活動 〜地域とともに〜

地域包括支援センターは、平成十八年に開設され今年で十二年が経過しました。関係機関・専門職種との連携と地域住民の方との協働によって、お年寄りを支える地域づくりを目指してきました。

地域包括ケアシステムづくりでは、これまで培ってきた顔の見える関係を大切にしながら、地域に点在する様々な支える力を結集します。また地域の方の自主性・主体性を尊重しながら、地域の特性を生かしたお年寄りを支えるケアシステムをつくり上げていくことが求められます。

はら地域包括支援センターにおいても、この十二年間培ってきた地域の方との繋がりがや関係機関のご協力をいただきながら、これまで様々な事業を展開してきました。この紙面をお借りして、いくつかご紹介いたします。これからも地域住民の方々とともにお年寄りにとって、また私たちにとっても暮らしやすい優しい地域をつくっていききたいと念じています。

## 高齢者サロン

高齢者サロンは地域の皆様が気軽に「仲間づくり」「健康づくり」「出会いづくり」をするための活動の場です。原・浮島の地区センターにて毎週交互に開催しています。活動内容は、脳と身体のリレーニングとして運動・ゲーム・唱歌などを行い、介護予防の普及・啓発、生活の質の向上に繋がる支援をしています。参加者は六十五歳以上の高齢者の方で、今では帰りにお茶をする顔なじみの仲に発展しています。サロンが生活の中で楽しみとなり、いきいきと安心して暮らせる町づくりのお役に立てればと思っています。



『うきしまサロン』で体操

## 来ないか茶屋(認知症カフェ)

毎月第三水曜日に認知症カフェを開催しています。認知症の方やそのご家族、認知症サポーター、キャラバンメイト、近隣住民の方などご参加いただいています。

当事者の方が楽しい時間を過ごしていただけのような歌声喫茶・回想法・認知症予防体操や薬の話などを行い、毎月のイベントを楽しみに来てくださる方もいらっしゃいます。

住民の方々に認知症という病気を理解していただき、そして支えていく地域づくりに繋げていきたいと考えられています。



## 市営原団地『だんらん』

沼津市より委託を受け毎週火・金曜日に団地住民の方、その近隣に住む方が集まり、おしゃべりや手芸・囲碁将棋・体操などを行っています。また専門家による薬の話や認知症サポーター養成講座なども開催しました。

住民の方で気になる方、生活に困っている方などの情報もいただ

いております。一人暮らしの方の閉じこもり予防、地域の助け合いに繋げていきたいと思っています。



『だんらん』で  
認知症サポーター養成講座

## ノルディックウォーキング

はら包括では健康づくりと介護予防の一環として、ノルディックウォーキングの普及活動を続けてきました。

現在原・浮島地区では、住民の方が主体となってサークルを発足し活動するまでになりました。今年度は更なる普及活動として、3地区(一本松・桃里・植田)限定で3回の開催をいたしました。

薩埵峠で  
ウォーキング





# 家族の声

プレーゲあしたか運営推進会議

第三者委員 山田 福恵

若い頃から働き者で、家族の世話は勿論、地域・社会に住んでいく方達にも積極的に関わり尽くした母でした。

年齢を重ねていくうちに、体が不自由になってきました。父の介護をしていて気がつく、自分の体が思うように動かなくなりました。階段の昇降もできなくなり、家での介護が長びくにつれて、介護施設を考えるようになりました。

沼津の介護施設をいくつか見学し、入居するなら「あしたかホーム」と心に決めていました。

平成二十六年から「プレーゲあしたか」にお世話になることになり、とても嬉しかったです。

「プレーゲあしたか」の魅力、それは個を大切にしてくれて、献身的に介護をしてくれることです。例えば、所長さんが毎朝個々の入居者に会い、温かい言葉かけをしてくれることです。また半年ごと

にサービス計画を作成して、スタッフの方達、家族、本人を交えて、個に合った計画をたててくださることです。長期、短期の計画を立て実践・評価し、次年度につなげて生かしている点です。

また、情熱をもって献身的に介護をして下さっている介護士はじめスタッフの皆さんの存在も光っています。個人を大切にして誠実に入居者に接して下さり、家族は安心して預けることができます。チームワークも抜群で、きめの細かい誠実な介護には頭が下がり、日々感謝の気持ちでいっぱいです。

これからもお世話になります。どうぞよろしくお願い致します。



会食会での一コマ

今年度も「あしたかホーム」と「プレーゲあしたか」では、十月に中学生の職場体験学習の受け入れをしました。市内四校より延べ五十二名の参加がありました。初めての福祉施設での体験で、戸惑ったり緊張を隠せない生徒さんもありますが、どの生徒さんも真剣に取り組み、一日の最後には笑顔で終えることが出来ました。毎年この職場体験を機会に福祉の関心を持つ生徒さんもあります。その感想文のひとつをご紹介します。

## 職場体験学習

『楽しいことがあふれていた』

沼津市立浮島中学校 三年 大滝 悠理

あしたかホームで、福祉体験をさせてもらいました。一日目は、デイサービスでの体験で、デイサービスにはたくさんのお年寄りがいました。それぞれの個性であふれていました。最初は話題をつかむことができず、午前中はあまり会話をすることができませんでした。ですが、午後は午前と反対でたくさん会話することができました。たくさんのお話を聞かせてもらってよかったです。お散歩では、お年寄りのペースに合わせて歩きました。ある一人のお年寄りが私のことを、

「うちの娘」と、言ってくれ、心がいやされました。とてもうれしかったです。曾祖母がデイサービスに通っているので、どんなことをしているのか、介護士さんはどんなお仕事をしているのか分かりました。曾祖母、祖母に会いたくなりました。二日目はショートステイの体験をしました。デイサービスより大変で、会話をするのは同じですが、それに加えてご飯も仕度をしなければいけません。ですが、家で手伝いをしていたりしたので少しは役に立てたかなと思います。たくさんのお年寄りが、

「ありがとう」と笑顔で言ってくれたので、とてもうれしかったです。この体験を活かして曾祖母の介護を手伝おうと思いました。また、あしたかホームに行く機会があったら行こうと思いました。



# 春風会研修部会活動

**春**風会研修部会では、あしたかホーム、伊豆中央ケアセンター、ぬくもりの里、みはるの丘浮島、高尾園各施設より2名選出し部長以下11名の構成により、人材育成計画に関することを任として法人研修事業を企画・立案・実施しております。現在研修部会では、年間研修計画として、新人研修に始まり3年目研修、中堅研修Ⅰ・Ⅱ、専門研修Ⅰ・Ⅱ、幹部研修、トレーナー養成研修、法人内・外施設間交流(交感)研修を実施しております。

そこで、今回は、年間研修計画の新人研修内容についてご紹介させていただきます。新人研修では、新人職員育成の施設間格差解消と質の均一化を図るため法人内全施設においてトレーナー制度に基づく指導・教育を実施するとともに、



年2回集合研修を実施しております。

新人研修Ⅰでは、社会人・職業人・組織の一員としての心得及び接遇・マナーの基本を学ぶ機会を提供するとともに、先輩職員からの体験談、アドバイスから今後の指針を明確化します。Ⅱは、コミュニケーション・チームワークについての基本を知り、個人ワークやグループワーク、ロールプレイを通して、新人同士の思い・悩みの共有や情報交換を行いながら自己覚知を図り、2年目に向けて自ら考える力を養っていきけるよう取り組んでおります。

今後も、研修部会では、よりよい人材育成の為、研修内容を精査、検討し質の高い研修を提供できるよう努めて参ります。



## ●春風会法人本部・特別養護老人ホームあしたかホーム

〒410-0302 沼津市東権路1742-1  
TEL (055) 967-1166(代) FAX (055) 967-3566

## ●特別養護老人ホーム伊豆中央ケアセンター

〒410-2402 伊豆市大野304  
TEL (0558) 72-8111(代) FAX (0558) 72-7297

## ●特別養護老人ホームぬくもりの里

〒410-2315 伊豆の国市田京1259-29  
TEL (0558) 76-6700(代) FAX (0558) 76-7511

## ●特別養護老人ホームみはるの丘浮島

〒410-0318 沼津市平沼929-1  
TEL (055) 969-3355(代) FAX (055) 969-3385

## ●障害サービス 生活介護 沼津虹の家

〒410-0302 沼津市東権路1742-1  
TEL (055) 967-2220(代) FAX (055) 967-3566

## ●障害サービス 生活介護 あおばの家

〒410-2315 伊豆の国市田京1258-429  
TEL (0558) 76-6702(代) FAX (0558) 76-6702

## ●障害サービス 就労継続支援B型 もくせい苑

〒410-2315 伊豆の国市田京1258-47  
TEL・FAX (0558) 76-6755

## ●原高齢者福祉センター

〒410-0312 沼津市原1200-3  
TEL (055) 968-4510(代) FAX (055) 968-4511

## ●ふれあいデイサービス(デイサービス一般型)

〒410-2505 伊豆市八幡33-1中伊豆ふれあいプラザ  
TEL (0558) 83-3380(代) FAX (0558) 83-3380

## ●天城放課後児童クラブ

〒410-3213 伊豆市青羽47  
TEL (0558) 87-1080

## ●中伊豆放課後児童クラブ

〒410-2505 伊豆市八幡33-1中伊豆ふれあいプラザ  
TEL (0558) 83-2911

## ●水晶苑生きがいデイサービス(通所事業)

〒410-2323 伊豆の国市大仁74-8  
TEL (0585) 76-4697

## ●救護施設 沼津市立高尾園

〒410-0001 沼津市足高156-1  
TEL (055) 921-5722(代) FAX (055) 921-5723

## ●ケアハウスはるかぜ

〒410-0318 沼津市平沼929-1  
TEL (055) 969-3382(代) FAX (055) 969-3383

## ●小規模多機能施設 北狩野ケアセンター

〒410-2401 伊豆市牧之郷116番地  
TEL (0558) 72-8811 FAX (0558) 72-8860

## ●地域密着型特別養護老人ホーム プレীগあしたか

小規模多機能型居宅介護支援事業所  
〒410-0302 沼津市東権路1639-1  
TEL (055) 967-3400(代) FAX (055) 967-3401

## ●地域密着型介護老人福祉施設 プレীগあおひと

〒410-2318 伊豆の国市白山堂408-9  
TEL (0558) 76-7300 FAX (0558) 76-7299

## ●障害サービス ケアホーム などの家

〒410-2315 伊豆の国市田京1258-437  
TEL (0558) 77-1017

## ●地域活動支援センター サポートセンター絆

〒410-2315 伊豆の国市田京1259-293  
TEL (0558) 77-1221

## ●複合施設 ふらっと月ヶ瀬

〒410-3215 伊豆市月ヶ瀬408-1

## ●あまぎ認定こども園

TEL (0558) 85-2030 FAX (0558) 75-8201

## ●あまぎデイサービス(デイサービス一般型)

TEL (0558) 85-0816 FAX (0558) 75-8201

## ●就労継続支援B型 事業所プラム(障害サービス)

TEL (0558) 85-1919 FAX (0558) 75-8201

## ●プラムカフェ

TEL (0558) 85-2551 FAX (0558) 75-8201

## ●片浜・今沢地域包括支援センター

〒410-0874 沼津市松長12-3

TEL (055) 969-7050 FAX (055) 968-2177

## ●伊豆市修善寺地区地域包括支援センター

〒410-2413 伊豆市小立野66-1 修善寺生きがいプラザ

TEL (0558) 99-9301 FAX (0558) 99-9302

## ●なかいず認定こども園

〒410-2505 伊豆市八幡282-1

TEL (0558) 75-2810 FAX (0558) 75-2811

## ●はら居宅介護支援事業所

〒410-0311 沼津市原町中2-7-11

TEL (055) 941-8333 FAX (055) 941-8334